

## フィンランド型英語プラクティスを取り入れた小学校英語授業と家庭学習の連携

|     |   |
|-----|---|
| 著者  | 米崎 里, 多良 静也   |
| 雑誌名 | 教育学論究   |
| 号   | 14  |
| ページ | 75-86   |
| 発行年 | 2023-03-13  |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/10236/00030650">http://hdl.handle.net/10236/00030650</a> |

# フィンランド型英語プラクティスを取り入れた小学校英語授業と家庭学習の連携

Combining Elementary School English Classes Incorporating Finnish-Style English Practices with Home Learning

米崎 里\*・多良 静也\*\*

## Abstract

Finnish primary school English textbooks are qualitatively and quantitatively rich, and systematically combine lexical and grammatical practices. These practices lead to the retention of learners' vocabulary and grammar. Furthermore, these practices are devised so that children can work on them alone, not only in the classroom, but also at home which further allows their understanding of grammar and vocabulary to take hold. In this research, we tried to develop a practice similar to the practices offered in the Finnish textbooks that children could do alone at home. We tried to develop it in accordance with Japanese elementary school textbooks.

For a certain period of time, classes were conducted using Finnish-style practices for 6th graders in public elementary schools. From changes we have observed in the proficiency of the children's writing, the number of children writing in English rather than in Japanese or romaji increased, and the types of vocabulary used and expressions in English also increased. An analysis of the review sheets revealed that many children could work on their own as home learning, and that the characteristics of practices that the children thought were easy and fun to work on were those with audio information and illustrations, and those that could be done like a game. On the other hand, reading and writing practices became clear as a characteristic of practices that were difficult for them to tackle.

キーワード：家庭学習、フィンランド型英語プラクティス、小学校英語

## 1. はじめに

英語学習が学校教育で成功していると言われていたフィンランドの小学校英語教科書は、通常読本とワークブックの併用で使われている。読本は主に本文が掲載されており、ワークブックにはプラクティスが掲載されている。このワークブックの存在が大きく、ワークブックには、特定の学習項目を何度も繰り返して定着を図ることを目指したプラクティスだけでなく、さまざまな現実味のあるコンテキストの中で、児童が楽しく取り組めるよう工夫しながら、意識的に使用する経験を持たせるプラクティスが提供されている(伊東, 2014; 伊東・高田・松沢・緑川, 2015)。またワークブックのプラクティス全てを授業時間で行うのではなく、家庭で宿題として

課されることが多く、授業と家庭学習が有機的に結び付けられている(伊東, 2014)。

一方、日本においては2020年より小学校高学年で教科としての「外国語」の授業が開始され、教室では主に言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが目指されている。筆者らはこれまで高学年を中心として、小学校で英語の授業を実践した経験から、(1)学習した語彙・表現定着、(2)児童間の英語力の差、学習者の多様性への教師による対応が課題であることを認識した。具体的に、(1)については、児童は学習した語彙や表現を学習した直後には言えるが時間が立つと忘れてしまう。また(2)については、学校以外で英語を学習している児童やこれまでに英語経験を持つ児童がいる一方で、スローラーナーや

\* Michi YONEZAKI 関西学院大学教育学部・准教授

\*\* Shizuya TARA 高知大学教育学部・教授

学習支援を必要とする児童がいて、英語学習の早い段階から児童間で英語力の差が見られること、また英語力の差だけでなく、教室での活動に参加できない児童など多様な学習者への対応も必要であることである。これらの状況を踏まえ、筆者らは学習内容の定着を図るために、そして個々の学びを保障するには家庭学習をうまく使い、家庭学習の充実を図ることが重要だと考えた。しかし授業で学習した語彙や表現を家庭学習で復習させるような、教科書の内容と一体となった日本の小学校用の体系的なワークブックは存在しないのではないと思われる。そこで筆者らは、フィンランドの小学校教科書で提供されているような、児童が家庭学習で一人でも取り組むことができるプラクティスを日本の小学校外国語科用教科書に合わせて開発し、家庭学習として児童が取り組むことができるかを調査することにした。

なお本研究で用いるプラクティスとは、機械的なドリルやリポートを要求するプラクティスだけを指すのではなく、DeKeyser (2007) が提示しているように、第2言語の知識や能力を発達させる目的で、学習者に体系的に意図的に行わせるあらゆる活動とし、より幅広い意味で用いることとする。したがって、学習指導要領の外国語科における言語活動に関しては、学習した言語を使うことを目的とした体系的に意図的に設定される活動でもあるため、本研究のプラクティスに含まれる。

## 2. フィンランドの小学校英語ワークブックのプラクティスの特徴

フィンランドの英語教育が成功している要因の一つに英語教科書が挙げられており、中でも英語ワークブックの存在が大きいと言われている (伊東・高田・松沢・緑川, 2015; 米崎, 2020)。本章ではフィンランドの英語ワークブックのプラクティスの特徴として以下の4点を取り上げる。

### 2.1 圧倒的なプラクティスの量

フィンランドのワークブックには文法項目に関するプラクティス、語彙に関するプラクティス、発音に関するプラクティス、本文内容理解に関するプラクティスなどが含まれている。いずれのプラクティスも日本の教科書と比較すると圧倒的なプラクティス数であり、中でも文法に関するプラクティスは、日本の中学校の教科書と比べても約5倍の多さと

なっている (米崎・川見, 2020)。

### 2.2 語彙・文法が組織的に結びついたプラクティス

文法に関するプラクティスは、語彙に関するプラクティスと組織的に結び付けられている (米崎・川見, 2020)。学習した語彙は、各ユニットの学習文法項目に関する活動で使われる。ゆえに、各ユニットの語彙は学習する文法項目に使われやすい語彙が選定されており、文法の活動を支えるための語彙学習という位置づけとなっている。語彙学習の後は、文法に関するプラクティスが続き、最終的に学習した語彙と文法を使った統合的な言語活動型のプラクティスにつながられている。また学習した語彙や文法を使ったチャンツや明示的に説明されている文法表も提供されており、これらも定着の一助となっている。

### 2.3 学習者の多様性に応じたプラクティス

日本の学習指導要領にあたるフィンランドの基礎教育ナショナルコアカリキュラムには (FNBE, 2014, p. 703)、「言語に関わる学習困難な児童に対してサポートを提供すべきであり、同時にすでにある程度の英語運用能力を備えている児童や外国語能力の高い児童に対しても課題を提供すべきである」と明記されている。多様な学習者に対応するために、フィンランドのワークブックには、絵と単語を結びつけるだけのプラクティスや、単語の一部の文字を書くだけのプラクティス、正しい英文を選ぶだけのプラクティス、英文をペアで読み合うだけのプラクティスなど比較的取り組みやすく、どの学習者も確実にできるようなプラクティスが提供されている。一方、各ユニットにはレベルの高いプラクティスが自由選択として与えられている、あるいは各ユニットの最後に Extra と呼ばれるページが設けられており、そこではより高度な活動が準備されている。

### 2.4 家庭学習を意識した一人でもできるプラクティス

フィンランドの小学校の英語の授業時間数は通常週2時間で日本とほぼ同じである。したがってワークブックのプラクティスは授業だけでは到底消化できない。授業でできなかった分は宿題として課される。ゆえにプラクティスは一人でもできる活動が多く含まれており、また確実に解けるよう工夫がなさ

れている。同じ項目を形を変えて問うたり、あるいは同じ（前の）ページのどこかに答えやヒントが与えられていたり、順番に解いていけば一人でもできるというプラクティスが実に多い。さらにプラクティスは一人で行っていても楽しく学べるよう工夫がなされている。

### 3. 開発したプラクティスの特徴

筆者らは、学習内容の定着を図るために、そして個々の学びを保障するには、学校の授業と家庭学習をうまく組み合わせることにより英語力を格段に向上させることができると考え、フィンランドで提供されているような学習内容の定着を促進でき、かつ児童が家庭学習で一人でも取り組めるようなプラクティスを考案した。その特徴をまとめると以下のようになる。

#### 3.1 小学校外国語科用教科書に準じた言語材料の配列

出版社によって言語材料の配列は多少異なるが、どの小学校外国語科用教科書を使ってもできるだけ対応できるように語彙や表現のプラクティスの考案を試みた。ただし、小学校外国語科用教科書では扱っていないが、学習が必要だと思われる語彙や表現も追加している（学習内容の一覧は資料1を参照）。

#### 3.2 イラストで理解し、ゲーム感覚で行えるプラクティス

認知心理学の中の精緻化リハーサルと呼ばれる理論の一つである二重符号化理論（dual coding theory）では、言語情報と非言語情報（イラスト等）の2通りで情報処理を行う方が記憶を保持しやすいとされている（三宮, 2018）。この理論を用いて、プラクティスにはイラストを通して語彙や表現を理解できるようにイラストをふんだんに使用した。またゲーム的要素を取り入れたプラクティスもできるだけ多く取り入れ、児童が楽しく学べるよう工夫を加えた。たとえば図1は、職業を表す語彙に関するプラクティスであり、単語と単語を結びつけ職業を表す単語にし、さらにその意味を表しているイラストに結びつける問題である。結びつけるという楽しさと、イラストを通して意味を理解できる工夫を加えている。

#### 3 例にならって英語とイラストを結ぼう。

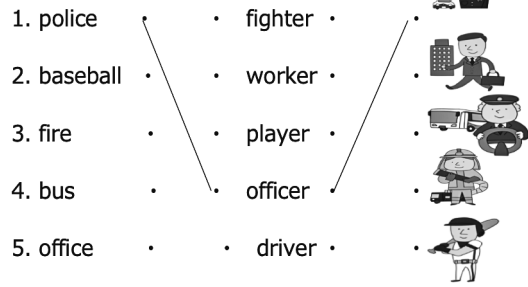


図1 語彙に関するプラクティス例

#### 3.3 多様な学習者を考慮したプラクティス

教室にいる様々な学習者に対応できるように、フィンランドのワークブックと同様、多様な学習者を考慮したプラクティスの提供を試みた。イラストで単語や英文の意味を理解したり（図2）、イラストと単語を結びつけたり、イラストを見て正しい英文を選ぶだけのプラクティスは確実に答えられる問題で、児童の心理的な負担の軽減にもなる。一方、プラクティスを早く終えた児童には、フィンランドのワークブックと同様、レベルの高い活動を自由選択

#### 5 イラストの人物と he か she を線でむすぼう。

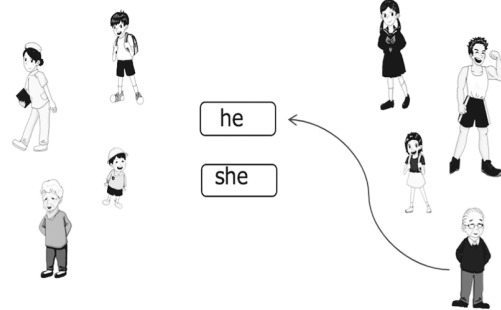


図2 イラストで英語の意味を理解するプラクティス例

#### 10 イラストを使って、いろいろな文を作ってみよう。

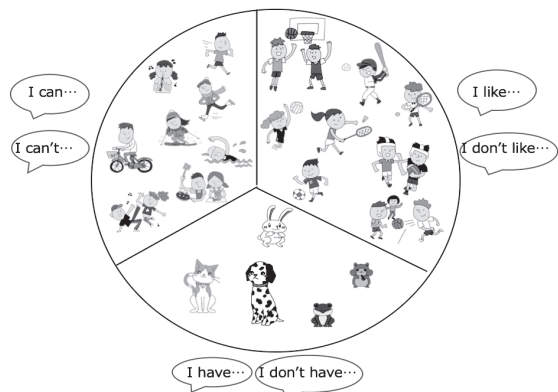


図3 復習用のプラクティス例

にしたプラクティスや、いくつかのユニットの学習を終えるとこれまで学習した語彙や表現を復習できるプラクティスを準備した。例えば図3は、イラストや吹き出しの中の英語をヒントにして、これまで学習した語彙、動詞・助動詞 can を用いて表現する復習用のプラクティスである。このプラクティスで、児童によっては自分の知っている単語や表現を使い、多様な英語を表現することができる。

### 3.4 語彙と文法を体系的に結びつけたプラクティス

現学習指導要領では文法関連の扱いは「語順の気づき」に留められているが、本研究では、次期学習指導要領を見据えて、文法に関するプラクティスをも取り入れている。語彙や文法に関するプラクティスの展開は、児童が様々なプラクティスを通して繰り返し触れ、使いながら定着することを目指した。

各ユニットの展開は、まず語彙に関するプラクティスを行い、続いて文法に関するプラクティスを行う。そしてユニットの最後には、学習した語彙や文法項目を活用した統合的な言語活動型のプラクティスにつなげるようにしている。またプラクティスだけでなく、文法項目をターゲットセンテンスの形で明示的に示し、学習する語彙や文法項目を取り入れたチャンツや歌も提供し、プラクティスをサポートした。各ユニットのおよその展開を示すと図4になる。

### 3.5 アウトプットを支援するためのプラクティス

意味と形式を重視したプラクティス、いわゆるド

リルのプラクティスは教師中心になりやすく、学習者の活動が受け身になりやすい等の理由で批判もあるが、一方でそのようなプラクティスは、言語形式や機能を結びつける役割を果たし、次のコミュニケーション活動の橋渡しとして必要なプラクティスであるとされる (Carlson, 1997; 高島, 2011; Van den Branden, 1997)。実際、フィンランドのワークブックにもドリル的なプラクティスは多く掲載されており、アウトプットを支援するためのプラクティスとして重要視されている。本研究でも意味と形式を重視したプラクティスはアウトプットを支援するためのプラクティスとみなし、積極的に取り入れた。ただし、イラストを加えたり、文字のフォントを変えるなど児童にとって楽しいプラクティスになるよう試みた。

## 4. 研究方法

### 4.1 参加者

本研究における対象者は、2022年度の奈良市立A小学校6年生4クラスの児童116名である。なお、英会話スクールや塾など学校外で英語を学習している児童は今回対象を外している。また参加した学級担任は4名である (特別支援担当教員1名が入る場合もある)。4名のうち中・高等学校教員 (英語) の免許状を取得している学級担任はいない。このうち1名はA小学校の研修部英語教育担当者である。なお本研究では実施に先立ち、参加校の学校長に研究の内容について直接説明を行い、本研究への協力について了解を得た。また研究の趣旨並びに個人情報情報は匿名化され適切に管理される旨を参加児童に説

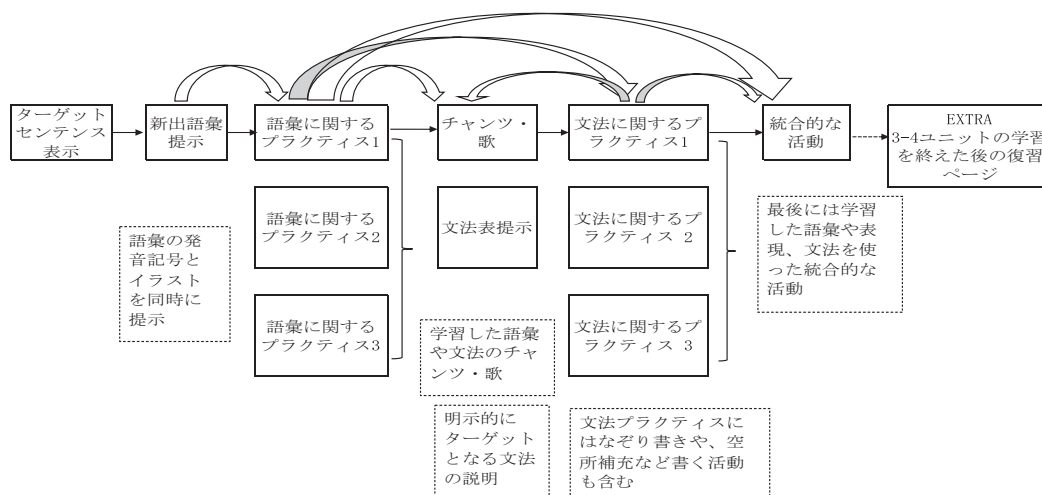


図4 各ユニットのプラクティス

明した。

#### 4.2 手順

本研究ではまず、6年生の4月の時点で児童の英語力を調べるために、最初の授業で新しいクラスメートに自己紹介をするカード作りを行なった。その後児童は作成したカードを用いて新しいクラスメートに自己紹介を行なった。後日児童が書いたプロフィールカードを第一著者が勤務する大学の英語科教育法を履修している学生に配布し、児童が書いたプロフィールにコメントを書いてもらった。児童にコメント付きのカードを返却したところ、大学生からのコメントに喜び、学期の終わりに大学生に再度英語で手紙を書くことを提案した。

考案したプラクティスを冊子にまとめたワークブックを児童に配布し(図5)、音声とワークブックの解答はタブレットで提供した。ワークブックを用いた授業期間は、1学期間の約2ヶ月である。ただし、限られた期間の実施であるため、ワークブックの学習項目をすべて終えたわけではない。授業では資料1のL7まで終了したが、家庭学習としてその先も学習した児童もいる。

まずワークブックを用いた授業を第一著者が実践し、学級担任にも示した。初版のワークブックにはペア活動やグループ活動も含めているため、教室ではペアやグループ活動など教室でしかできないプラクティスを行い、一人でもできるプラクティスは家庭学習に回すなど、家庭学習をうまく組み合わせた授業を心掛けた。また児童には、家庭学習を行う際、ワークブックを使った学習方法も教えた。たとえば「英語を聞いて、英語を繰り返して言うてみよう」という指示があれば、タブレットの音声を流し、最初は文字を指でなぞって聞き、次に音声と一緒に何度も繰り返して音読すると良いことを伝えた。児童がワークブックのプラクティスに慣れてきたとこ

ろで、家庭でワークブックをどんどんすすめて行っても良いことを伝えた。

家庭学習を行う際、児童に学習記録表を配布し、学習日、学習したページ、番号を記録してもらった。そして取り組みやすかったプラクティス、難しかったプラクティス、面白かったプラクティスなど、コメントがあれば任意で記録することを依頼した。ただし、この学習記録表に記録すること自体、負担がかかる児童もいるので、毎回書かなくても良いことを伝えた。

#### 4.3 分析方法

児童の英語の変化に関しては、4月と7月に書いた児童の英語のライティングを比較する。ライティングにした理由は、コロナ感染症拡大で発話の制限があったためである。またテーマに関しては、4月は新しいクラスメートに対しての自己紹介で、7月は大学生に対しての自己紹介であり、自己紹介をする相手は異なるが、同じテーマであるため児童は4月時の活動に似た英語表現を使い、英語を比較しやすいと判断したためである。なお、ライティングの分析対象者は、4月と7月のライティング活動の両方参加した児童で、英会話スクールや塾に行っている児童を除くと対象となる児童の数は95名であった。

次に開発したプラクティスが、家庭学習として取り組むことができたかを調査するために、児童の家庭学習記録表のコメントを分析し、児童にとって取り組みやすいプラクティス、または取り組みにくいプラクティスを抽出し、その特徴をまとめる。そして、児童が難しかった、取り組みにくかったと答えたプラクティスを、家庭学習で取り組めるよう改善したいいくつかのプラクティスを示す。

## 5. 結果

### 5.1 児童の英語の変化

表1は4月と7月に児童が書いたライティングの中で児童が使用した言語の種類と割合、そして児童が産出した英文数の比較である。ライティングの言語表記は①英語のみで書いているもの(例:I like basketball)、②英語とカタカナ(もしくはローマ字)両方で書いているもの(例:I like バスケットボール/I like basukettoboru)、③カタカナもしくはローマ字で書いているもの(例:アイライクバスケット

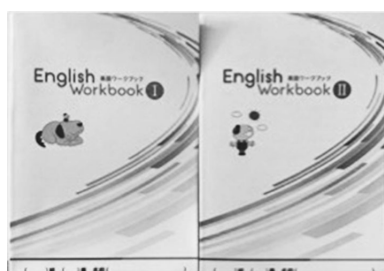


図5 開発したワーク

表1 英文の産出数と使用言語比較 (n = 95)

|                  | 4月  |      | 7月  |      |
|------------------|-----|------|-----|------|
|                  | 英文数 | %    | 英文数 | %    |
| ①英語              | 253 | 64.7 | 733 | 96.2 |
| ②混合型             | 92  | 23.5 | 20  | 2.6  |
| ③カタカナ or<br>ローマ字 | 46  | 11.8 | 9   | 1.2  |
|                  | 391 | 100  | 762 | 100  |

ボール/Ai raiku basuketto boru) が見られた。今回は、単語を正しく書けていなくても英語で書いていけば英語表記としてみなした。4月と7月を比較してみると、7月で産出された英文が4月と比べると大幅に増え(4月→391文, 7月→762文)、また7月ではほとんどの文を英語のみの表記で書けるようになっていた。

表2および3は4月と7月のライティングで使用された単語の種類と総数である。分類は山口・巽(2020)を参照にして品詞ごとにまとめた。数え方としては、同一の単語は何回使用されていても1とした。また名詞の単数・複数形は同一の単語として

数えた。固有名詞に関しては国名を除く地名や名前は削除している。また自分の誕生日を言う時に使っていた数字の序数詞は除外している。ただし、児童が自分の年齢を述べるときに使った数字(elevenまたはtwelve)は名詞として含めた。またtwo dogsなど形容詞として使っていた数字は含めた。

4月の時点ではそれぞれの品詞に属する単語(動詞18, 名詞・代名詞66, 形容詞10, 副詞5, 前置詞4, 冠詞2, 助動詞2, その他4)の総計が111であり、7月では単語の種類が174(疑問詞4, 動詞22, 名詞・代名詞103, 形容詞22, 副詞7, 前置詞6, 冠詞2, 助動詞2, その他6)と増加した。特に名詞(代名詞)と形容詞の種類が増加した。

次に、同じく山口・巽(2020)の分類を参照にして、4月と7月のライティングで児童が使用した英語表現のパターンとその数の比較を行った。今回は文で表現されたもののみを対象とした。それぞれの表現パターンとその出現回数をまとめたものが表4である。4月の時点では11種類の英語表現パターンが確認され、全体の出現総数は336であった。一方、7月の時点では39種類の英語表現パターンが確認され、全体の出現総数は649であった。

表2 4月のライティングで使われた単語の種類と総数

| 動詞      | 名詞(代名詞)     |            |        | 形容詞    | 副詞      | 前置詞  | 冠詞  | 助動詞 | その他     |
|---------|-------------|------------|--------|--------|---------|------|-----|-----|---------|
| am      | aikido      | I          | TV     | fine   | always  | at   | a   | can | and     |
| cook    | anime       | January    | video  | good   | not     | for  | the | do  | but     |
| dance   | April       | July       | you    | happy  | too     | to   |     |     | hello   |
| do      | August      | jump rope  | fine   | hot    | usually | with |     |     | however |
| draw    | baseball    | June       | good   | hungry | well    |      |     |     |         |
| is      | basketball  | karate     | happy  | nice   |         |      |     |     |         |
| jump    | birthday    | kendo      | hungry | sleepy |         |      |     |     |         |
| like    | book        | March      | nice   | sour   |         |      |     |     |         |
| look at | calligraphy | math       | sleepy | super  |         |      |     |     |         |
| meet    | candy       | May        | sour   | tired  |         |      |     |     |         |
| play    | cat(s)      | me         | super  |        |         |      |     |     |         |
| read    | cook        | music      | tired  |        |         |      |     |     |         |
| run     | cooking     | my         |        |        |         |      |     |     |         |
| sing    | December    | November   |        |        |         |      |     |     |         |
| speak   | dodgeball   | October    |        |        |         |      |     |     |         |
| study   | dog(s)      | P. E.      |        |        |         |      |     |     |         |
| swim    | doing       | piano      |        |        |         |      |     |     |         |
| want    | drawing     | picture    |        |        |         |      |     |     |         |
|         | English     | playing    |        |        |         |      |     |     |         |
|         | family      | September  |        |        |         |      |     |     |         |
|         | February    | sister(s)  |        |        |         |      |     |     |         |
|         | food        | soccer     |        |        |         |      |     |     |         |
|         | friend      | sport(s)   |        |        |         |      |     |     |         |
|         | fun         | strawberry |        |        |         |      |     |     |         |
|         | game(s)     | student    |        |        |         |      |     |     |         |
|         | guitar      | tennis     |        |        |         |      |     |     |         |
|         | hero        | tomato(s)  |        |        |         |      |     |     |         |
| 18      | 66          |            |        | 10     | 5       | 4    | 2   | 2   | 4       |

表3 7月のライティングで使われた単語の種類と総数

| 疑問詞   | 動詞    | 名詞 (代名詞)        |              |                |             |           | 形容詞      | 副詞   | 前置詞 | 冠詞  | 助動詞     | その他 |   |
|-------|-------|-----------------|--------------|----------------|-------------|-----------|----------|------|-----|-----|---------|-----|---|
| how   | am    | America         | dogeball     | Korea          | September   | any       | actually | at   | a   | do  | but     |     |   |
| what  | are   | animal(s)       | drawing      | lady           | she         | beautiful | always   | from | the | can | bye     |     |   |
| where | be    | anime           | eleven       | life           | Sigapore    | cute      | anytime  | in   |     |     | goodbye |     |   |
| who   | cook  | apple(s)        | English      | lizard         | sister      | dear      | most     | on   |     |     | hello   |     |   |
|       | dance | April           | evening      | March          | soccer      | delicious | not      | to   |     |     | hi      |     |   |
|       | do    | arts and crafts | family       | math           | sport(s)    | every     | too      | with |     |     | or      |     |   |
|       | enjoy | August          | February     | May            | straberry   | favorite  | usually  |      |     |     |         |     |   |
|       | go    | badominton      | fishing      | Mom            | student     | fine      |          |      |     |     |         |     |   |
|       | have  | ballet          | food         | movie          | stuffy doll | good      |          |      |     |     |         |     |   |
|       | is    | baseball        | French fries | name           | subject     | happy     |          |      |     |     |         |     |   |
|       | like  | basketball      | Friday       | night          | Sunday(s)   | hungry    |          |      |     |     |         |     |   |
|       | live  | bird            | friend       | November       | swimming    | kind      |          |      |     |     |         |     |   |
|       | love  | birthday        | game(s)      | October        | tennis      | many      |          |      |     |     |         |     |   |
|       | meet  | book            | girlfriend   | P. E.          | thing       | my        |          |      |     |     |         |     |   |
|       | play  | boyfriend       | goods        | Paris          | this        | next      |          |      |     |     |         |     |   |
|       | read  | brother         | green        | piano          | time        | nice      |          |      |     |     |         |     |   |
|       | see   | calligraphy     | hamster      | pictures       | tomato(es)  | old       |          |      |     |     |         |     |   |
|       | sleep | campus          | hero         | pig            | treasure    | sleepy    |          |      |     |     |         |     |   |
|       | study | cat(s)          | I            | pizza          | twelve      | smart     |          |      |     |     |         |     |   |
|       | thank | cherry          | it           | player         | volleyball  | tired     |          |      |     |     |         |     |   |
|       | want  | chocolate       | January      | police officer | we          | two       |          |      |     |     |         |     |   |
|       | watch | color           | Japan        | rabbit         | weekend     | your      |          |      |     |     |         |     |   |
|       |       | cook            | Japanese     | red            | white       |           |          |      |     |     |         |     |   |
|       |       | dancer          | July         | Saturday(s)    | years       |           |          |      |     |     |         |     |   |
|       |       | December        | June         | school         | you         |           |          |      |     |     |         |     |   |
|       |       | dog(s)          | karate       | science        |             |           |          |      |     |     |         |     |   |
| 4     | 22    |                 |              |                |             |           | 103      | 22   | 7   | 6   | 2       | 2   | 6 |

表4 英語表現のパターンとその数

| 英語表現              |                           | 4月  | 7月           | 英語表現 |                                | 4月  | 7月 |
|-------------------|---------------------------|-----|--------------|------|--------------------------------|-----|----|
| 肯定文               | I'm + 名詞                  | 7   | 98           | 疑問文  | Are you + 名詞?                  | 0   | 1  |
|                   | I'm + 形容詞                 | 50  | 36           |      | Are you + 形容詞?                 | 0   | 11 |
|                   | I'm + 前置詞 + 名詞            | 0   | 7            |      | Are you + 前置詞 + 名詞?            | 0   | 1  |
|                   | I'm + 前置詞 + 名詞 + 前置詞 + 名詞 | 0   | 2            |      | Can you + 動詞?                  | 0   | 1  |
|                   | I'm good at 動名詞/名詞        | 1   | 2            |      | Do you like + 名詞・動名詞?          | 0   | 30 |
|                   | 名詞 + is 形容詞               | 0   | 3            |      | Do you + 動詞 (+ 名詞)?            | 0   | 17 |
|                   | 名詞 + is (a) 形容詞 + 名詞      | 0   | 1            |      | How are you?                   | 0   | 3  |
|                   | You are + 形容詞             | 0   | 1            |      | How many 名詞 do you have?       | 0   | 1  |
|                   | 名詞 + is + 名詞              | 137 | 84           |      | How old are you?               | 0   | 49 |
|                   | I can + 動詞                | 59  | 8            |      | What do(would) you + 動詞(+ 名詞)? | 0   | 18 |
|                   | I + 動詞 + 名詞               | 67  | 115          |      | What do you want to ~?         | 0   | 5  |
|                   | I + 動詞 + 動名詞              | 8   | 5            |      | What 名詞 do you like?           | 0   | 25 |
|                   | I want to + 動詞            | 1   | 10           |      | What 名詞 can you + 動詞?          | 0   | 1  |
|                   | I + 動詞 + 前置詞 + 名詞         | 0   | 6            |      | What's your 名詞?                | 0   | 42 |
|                   | Nice to meet you.         | 3   | 9            |      | When is 名詞?                    | 0   | 12 |
|                   | (Please) write soon.      | 0   | 2            |      | Where are you from?            | 0   | 9  |
|                   | See you.                  | 0   | 11           |      | Where do you + 動詞?             | 0   | 5  |
| Sorry.            | 0                         | 2   | Who are you? | 0    | 13                             |     |    |
| 否定文               | I'm not + 形容詞             | 0   | 1            | 合計   | 336                            | 649 |    |
|                   | I don't + 動詞 + 名詞         | 2   | 0            | 種類   | 11                             | 39  |    |
|                   | I can't + 動詞              | 1   | 1            |      |                                |     |    |
| You are not + 形容詞 | 0                         | 1   |              |      |                                |     |    |

4月のライティングにおいては、「My name is 名詞」「My birthday is 名詞」「I can 動詞」「I'm + 形容詞 (気持ちを表す)」「I like 名詞」のパターンが多く見られたが、7月のライティングではそれ以外の英語表現が多くみられるようになった。肯定文に着目してみると、たとえば4月では「I + 動詞 + 名詞」

のパターンの多くが like を使った動詞であったが、7月では like 以外に「play スポーツ」「have ペット・友達・家族」「read 本」「enjoy school・教科」などの動詞や名詞が新たに使用されていた。7月のライティングで「I'm + 名詞」のパターンが増加している理由は、「My name is 名詞」の代わりに「I'm



名前」を使い表現した児童が増えたこと、さらに I'm eleven/twelve. など年齢を表現した児童が多かったためである。ちょうどワークブックで、自分の年齢を述べたり相手の年齢を尋ねる表現のユニットを学習したのが影響を与えたと思われる。7月のライティングで疑問文 How old are you? の表現が多く使われているのも同じ理由であろう。

「名詞+is+名詞」のパターンは、7月のライティングで数が減少しているが、先述したように「My name is+名詞」の代わりに「I'm 名前」を用いた児童がいたためである。4月のライティングでは、「名詞+is+名詞」のパターンでは、'My name', 'My birthday' が主語に用いられているのがほとんどであったが、7月のライティングでは、それ以外に 'My treasure', 'My hero', 'My favorite subject (animal/food/sport/anime)' など新たな表現が使われていた。

7月のライティングは、大学生への自己紹介というテーマであったので、大学生に質問をするために疑問文が多く使われていたことが特徴である。ワークブックでは be 動詞の疑問文 (Are you~?) や一般動詞の疑問文 (Do you like(have/play)~?)、特定の場面での疑問文 (How old are you?/Who are you?/What's your name?/When is your birthday?/Where are you from?など) の表現を学習したため、児童は無理なくさまざまな疑問文を使うことができるようになったと推察される。

次に実際の児童のライティング例を示す。図6の児童Aは口頭であれば自己表現はできるが、書くことに関しては、4月の時点では自分の名前以外は書けていなかった児童である。しかしながら、7月には、英語で書くことができおり、肯定文だけでなく疑問文も使用できるようになっていた。

一方、児童Bは4月の時点でも既習語彙や表現を使いある程度英文を産出できていたが、7月の時点では多くの疑問文が使えるようになっていた。7月のライティングの一部に How old are you? 23 or 24? の表現を使っており、23 or 24? は6年生の児童が普通使える表現ではないが、ワークブックのチャンツの中に How old are you? Eleven or ten? というフレーズがあり、そのまま応用して使ったと考えられる。

図8の児童Cはワークブックを気に入り、家庭学習などを利用し、いち早くワークブックを終了した児童である。4月のライティングでは単語のユニットの認識がなく、スペースを作らず続けて書いていたが、7月のライティングでは単語のユニットの認識ができている。また、4月ではカタカナで書いていた英語を英語で書けるようになっていたり、相手のことを尋ねる疑問文が使えるようになっていたりなど、ワークブック学習の成果が見られる。

紙面の関係で3名の児童のライティング例しか示すことができなかったが、スペリングの誤りや、冠詞、名詞の単数形・複数形の使い方に関してはまだ

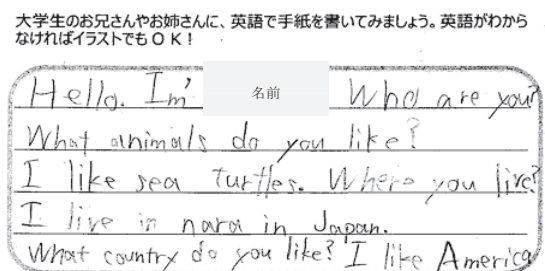
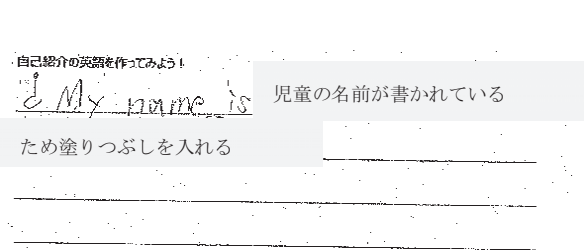


図6 児童Aの4月(左)と7月(右)のライティング

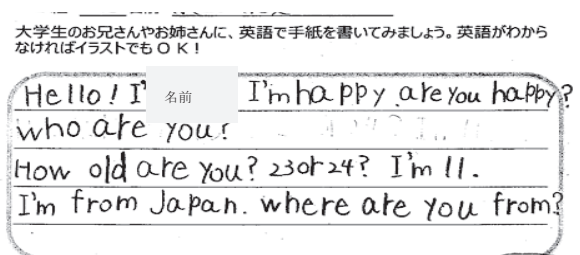
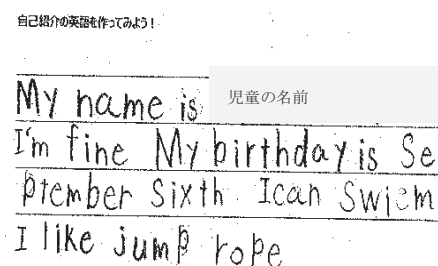


図7 児童Bの4月(左)と7月(右)のライティング

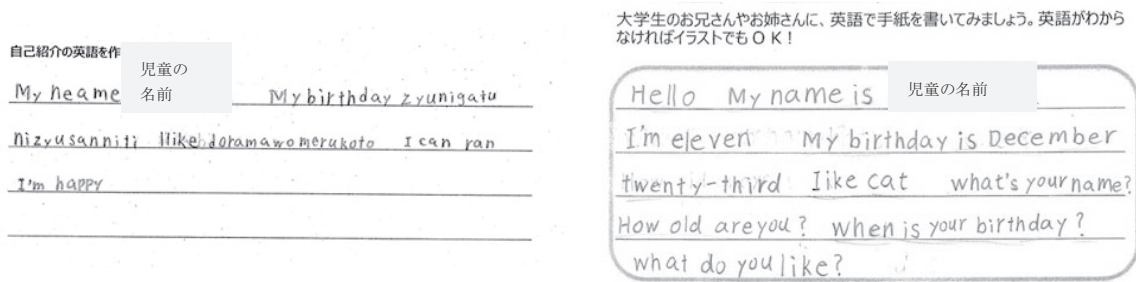


図8 児童Cの4月(左)と7月(右)のライティング

課題があるが、ほとんどの児童は使用単語や表現が増える結果となった。

5.2 児童が取り組みやすいプラクティスの特徴

本節では、開発したプラクティスが家庭学習として取り組みやすかったかどうかを調査するために、児童の家庭学習記録表のコメントを分析し、児童にとって取り組みやすいプラクティス、または取り組みにくいプラクティスを抽出し、その特徴を挙げる。

回収できた家庭学習記録表は54人分で、児童のコメントは総計257文であった。そのうち「(よく)(まあまあ)(頑張って)できた」「簡単だった」「わかりやすい」「余裕」などのコメントが入っているものを「取り組みやすい」プラクティスとみなした。

児童が取り組みやすいプラクティスの一つ目の特徴は、「音声情報があるプラクティス」である。リスニングに関してはどのプラクティスも比較的取り組めたとコメントをしている。また音声を聞き、単語や表現の英語を繰り返すプラクティスは「簡単だった」「できた」と言うコメントが散見し、さらにイラスト付きであれば確実にできたようである。プラクティスはできるだけ音声情報があるものが望ましいことが分かった。

二つ目の特徴は、「イラスト付きのプラクティス」である。プラクティスは、イラストを通して語彙や表現を理解できるようにイラストをふんだんに使用したため、イラストがあるプラクティスは肯定的なコメントが多く見られた。実際児童のコメントには「イラストがあったため、わかりやすかった」などが見られた。またイラストがあればプラクティスの数が多少多くても取り組めることも分かった。

三つ目の特徴は、「確実に解ける」プラクティスである。このタイプのプラクティスとして、正しい

方を○で囲んだり、選ぶだけのプラクティス、イラストとそれを表す意味を結び付けるだけのプラクティスである。この種のプラクティスであれば確実に解けるので、児童に自信を与えることができよう。

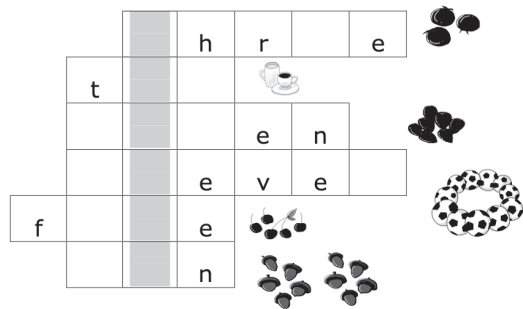
5.3 児童が楽しいと思うプラクティスの特徴

学習記録表に「楽しかった(楽しい)」「面白かった」「もっとしたい」「もっと数を増やしてほしい」「遊びみたいだった」「良かった」などのコメントがあったプラクティスを抽出し、以下3つの特徴を見出せた。

一つ目は前節でもあげた「イラスト付きのプラクティス」である。児童はイラストがあるとわかりやすく、わかると楽しいと感じる。実際児童のコメントには、「イラストがリアルで楽しい」「絵の表情がかわいくて楽しい」などイラストに関するコメントが多く見られた。

二つ目は「ゲーム性のあるものやゲーム感覚で行えるプラクティス」、また「クイズになっているプラクティス」である。図9はクロスワードの問題で

7 絵を見て数を英語で書こう。水色のます目を上から読んで、出てきた数字を書こう。



出てきた数字

図9 ゲーム感覚で行えるプラクティスの例

6 例にならって計算した答えを数字で書いて、英語で言ってみよう。

one + one = 2

1. one + two = \_\_\_\_\_ 2. three + four = \_\_\_\_\_  
 3. four + five = \_\_\_\_\_ 4. seven + one = \_\_\_\_\_  
 5. three - two = \_\_\_\_\_ 6. five - one = \_\_\_\_\_  
 7. eight - two = \_\_\_\_\_ 8. twelve - two = \_\_\_\_\_

図10 計算問題のプラクティスの例

あるが、イラストを見て数を英語で書く問題である。色付きのマスを上から読んでいくと出てきた数字を書くゲーム感覚の問題となっている。この種のゲーム感覚のプラクティスは、面白いと感じるようである。また結びつけるだけのプラクティスも児童にとっては遊び感覚ででき楽しいと感じるようである。

三つ目は「他教科横断型のプラクティス」、もしくは「CLIL 的要素のあるプラクティス」である。これらのプラクティスに関してはそれほど数は多くはないが、数字を扱った計算問題や（図10）、世界の国・地域で虹の見え方を扱ったプラクティス（色ぬりを含む）には「楽しい」というコメントが見られた。

#### 5.4 児童が難しいと思うプラクティスの特徴

児童のコメントの中で「難しかった（難しい）」「迷った」「わかりにくかった」などのコメントが入っているプラクティスの特徴をまとめると次の2点に絞られる。

一つ目は、「英語の読み方がわからないプラクティス」である。プラクティスに含まれている単語

や表現は既習のものであるが、単語や表現によっては音声では理解できるが、英語で読めない場合もある。実際のコメントとして、「読み方と意味がわかれば簡単」「英語が読めなかった」が見られた。

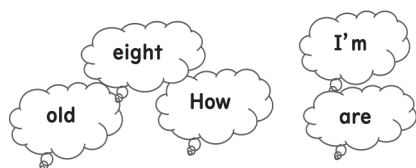
二つ目は「書くことのプラクティス」である。各ユニットにターゲットセンテンスを日本語から英語に訳すプラクティスを含んだが、そのプラクティスを「簡単だった」と答える児童もいる一方で「難しかった」とコメントをしている児童もいた。書くことに関するプラクティスはこれまで「言えるが書けない」の課題を解決するために、何回か修正し、図11の左側のプラクティスのように、全文を書くのではなく、一部の単語を入れるだけにし、さらに入れるべき単語をヒントとして与えるなど工夫をしたが、まだハードルが高い児童がいることがわかった。

#### 5.5 プラクティスの修正

児童のコメントを基に、さらに取り組みやすくするための工夫についての提案をする。たとえば、音声を聞けばわかるが文字だけでは英語の読み方がわからない児童がいるため、プラクティスではできるだけ音声付きにする。またプラクティスは当初教室で使うものと想定して作成していたものもありペアやグループワーク用のプラクティスが多く含まれているため、家庭学習として一人で行えるよう自分のことを言うプラクティスに変更する。さらに、語順を考えるプラクティスや部分的に英語を書くプラクティスは、「簡単」「できた」と答えている児童もいれば「難しい」と答えている児童もいたため、これらのプラクティスの前に「なぞり書き」を加える（図11右側参照）。また児童が書くことを含むプラク

11 日本語にあうように \_\_\_\_\_ に英語をいれて言ってみよう。

1. \_\_\_\_\_ are you? あなたは何才ですか。  
 2. \_\_\_\_\_ eight. わたしは8才です。  
 3. \_\_\_\_\_ old \_\_\_\_\_ you? あなたは何才ですか。  
 4. \_\_\_\_\_, too. わたしも8才です



11 英文をなぞろう。

How old are you?

I'm eleven.

12 日本語にあうように \_\_\_\_\_ に英語をいれて言ってみよう。

1. \_\_\_\_\_ are you? あなたは何才ですか。  
 2. \_\_\_\_\_ eleven. わたしは11才です。



図11 修正前（左）と修正後（右）のプラクティス

ティスはUD教科書デジタル書体を使用しているが、それ以外のプラクティスは様々なフォントを含んでいる。今後フォントの配慮も含めて、プラクティスの改良を引き続き行い、さらなる実践を続けていきたい。

## 6. まとめと考察

本研究は、学習した語彙や表現の定着のために、授業外でも児童が家庭学習で一人でも取り組むことができるプラクティスを日本の小学校外国語科検定教科書で扱われている言語材料を基に考案し、家庭学習として児童が取り組むことができるか、そして児童の英語力に効果があるかどうかを検証した。4月と7月の児童のライティングの比較分析から、ライティングにおける英語表記の割合やライティングで産出された英文の総数、使用した単語の種類や表現は増えた。これらの結果はワークブックを用いた学習以外の英語授業や他の要因の可能性は否定できないが、児童のライティングの中にワークブックで学習した表現も使われていることから何らかの影響があったと言えよう。

またプラクティスに対しての児童の反応は、取り組みにくい、もしくは難しいと感じるプラクティスがあったものの、多くは肯定的に捉えており、家庭学習でも取り組むことができた。この理由として、(1) 学習する語彙や表現はすでに授業で習っている言語材料で児童にとっては無理のないものであったこと、(2) 学習した語彙や表現を違うコンテキストでもう一度学習できる仕組みがあり、繰り返した学びは児童にとっては取り組みやすく、わかりやすかったこと、(3) ゲーム感覚やクイズ要素が入っているので、楽しく学べたことなどが考えられる。ただし、学習支援を要する児童にとっては家庭学習として一人で取り組むにはハードルが高かった。また今回は多くの学習項目が既習内容であったため、取り組むことができた可能性も否めないため、今後新規の学習項目で同様の結果が得られるか、引き続き検証を行っていきたい。

学習項目の定着や英語力を向上させるには、学校の授業と家庭学習をうまく組み合わせることが必要不可欠である。「鉄は熱いうちに打て」ではないが、児童が英語に興味を持っている間は、家庭学習は大きな可能性を持っている。その際、家庭学習は単なる暗記や覚える学習ではなく、伊東(2014)が強調

するように、早い段階から、分かる学習へと方向付け、「使いながら学ぶ」学習の仕方を会得させていくことも必要である。そして授業と家庭学習を有機的に結びつけるために、(1) 家庭学習内容が授業で活かせる場を提供すること、(2) 授業では教室でしかできないプラクティス(活動)を中心とし、家庭学習はその土台を作るプラクティスを提供することが必要で、これらをプラクティスに反映させ、改善したプラクティスを用いて実践を継続し、今後さらなる調査と提案を行っていく予定である。

## 引用文献

- Carlson, R. A. (1997). *Experienced cognition*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- DeKeyser, M. R. (2007). *Practice in a second language*. Cambridge University Press.
- FNBE (Finnish National Board of Education) (2014). *National core curriculum for basic education 2014*. Helsinki: Author.
- 伊東治己(2014).『フィンランドの小学校英語教育』東京:研究社.
- 伊東治己・高田智子・松沢伸二・緑川日出子(2015).「Autonomy 育成の観点からのフィンランド英語教科書分析」『日本教科教育学会誌』第38巻2号, 23-36.
- 三宮真智子(2018).『メタ認知で学ぶ力を高める認知心理学が解き明かす効果的学習法』京都:北大路書房.
- 高島英幸(2011).『英語文法導入のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ』東京:大修館書店.
- Van den Branden, K. (1997). Effects of negotiation on language learners' output. *Language Learning*, 47 (4), 589-636.
- 山口美穂・巽徹(2020).「Small Talk の継続的な実施による児童生徒の発話パフォーマンスの変化」*JES Journal*, 20, 84-99.
- 米崎里(2020).『フィンランド人はなぜ「学校教育」だけで英語が話せるのか』東京:亜紀書房
- 米崎里・川見和子(2020).「フィンランドの小学校英語教科書におけるプラクティスの分析」『日本教科教育学会』第43巻第2号, 35-48.

資料1 英語ワークブックの学習文法項目と語彙の一覧

| 英語ワークブックI   |  |                       | 英語ワークブックII  |   |                         |
|-------------|--|-----------------------|-------------|---|-------------------------|
|             | 文法項目   | 語彙                    |             | 文法項目  | 語彙                      |
| L1          | What's your name?<br>I'm.. / My name is...       | 挨拶                    | L1          | be動詞とhave                                   | 職業名                     |
| L2          | Where are you from?<br>I'm from ...              | 国                     | L2          | 一般動詞肯定文、否定文、<br>疑問文                         | 飲食物                     |
| L3          | How old are you?<br>I'm ...                      | 数字                    | Extra 1-2   |   |                         |
| L4          | How are you? / Are you -? /<br>I'm not...        | (感情を表す)<br>形容詞        | L3          | What would you like - ?<br>How much is - ?  | 飲食物 数字                  |
| Extra 1-4   |  |                       | L4          | What do you want to be?<br>I want to be - . | 家族・職業                   |
| L5          | I like ... / I don't like..<br>Do you like ...?  | 色・教科                  | Extra 3-4   |   |                         |
| L6          | I play .. / I don't play ...<br>Do you play ...? | スポーツ                  | L5          | We You They<br>be good at-                  | 楽器、動作を表す<br>動詞・they/we/ |
| L7          | I have... / I don't play ...<br>Do you have ...? | 動物                    | L6          | They / can                                  | 鳥・動物                    |
| Extra 5-7   |  |                       | Extra 5-6   |   |                         |
| L8          | 前置詞  | 文房具                   | L7          | where / 前置詞 / 命令文                           | 施設                      |
| L9          | Can you ...?                                     | 動作を表す動詞               | L8          | 一般動詞過去形<br>(規則規則変化)                         | 動作を表す動詞                 |
| L10         | How many?  | 果物、野菜                 | Extra 7-8   |   |                         |
| Extra 8-10  |  |                       | L9          | 一般動詞過去形<br>(規則動詞疑問文)                        | 体部位                     |
| L11         | He's - / She's -                                 | 家族・ (人の性質<br>を表す) 形容詞 | L10         | 一般動詞過去形<br>(規則動詞否定文)                        | 動作を表す動詞<br>教室にあるもの      |
| L12         | Where's - ?<br>Is she -? Is he - ?               | 部屋・家具                 | Extra 9-10  |   |                         |
| L13         | What day is it?<br>What time is it now?          | 曜日・時間                 | L11         | 一般動詞過去形<br>(不規則動詞)                          | 動作や状態を表<br>す動詞          |
| Extra 11-13 |  |                       | L12         | be 動詞の過去形                                   | 天候・形容詞                  |
| L14         | 数  | 数                     | Extra 11-12 |   |                         |
| L15         | 命令文  | 動作を表す動詞               | L13         | What did you do yesterday?                  | 動詞・形容詞                  |
| L16         | What time do you -?                              | 日常生活を表す<br>動詞         | L14         | Where did you go<br>yesterday?              | 疑問詞<br>施設・自然            |
| Extra 14-16 |  |                       | Extra 13-14 |   |                         |
| L17         | I want to-                                       | 国・施設・場所               |             |   |                         |
| L18         | 月・序数詞  | 月・序数詞                 |             |   |                         |
| Extra 17-18 |  |                       |             |   |                         |